

公益財団法人 日本ソフトボール協会機関誌

ソフトボール

2025年/令和7年
第486号

8月号
(毎月1回10日発行)

編集兼発行者 公益財団法人 日本ソフトボール協会

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square

T E L . 03-5843-0480 F A X . 03-5843-0485

編集部 ㈱日本体育社 〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-13-501

T E L . 03-3811-6911 F A X . 03-3811-6290



第2回女子U15ワールドカップで「全勝優勝」を飾った女子U15日本代表

C o n t e n t s

- ・第18回男子ワールドカップ ファイナル2
男子TOP日本代表、スーパーラウンド進出も4位で終戦
- ・第2回女子U15ワールドカップ4
女子U15日本代表、「全勝」で世界の「頂点」へ!
- ・ニトリ JD.LEAGUE 2025
「能登半島地震復興支援 東西対抗戦」.....6
- ・第58回日本女子ソフトボールリーグ交流節.....8
- ・UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会in高崎 ...12
- ・イベント開催続々 国際大会も開催
酷暑・猛暑にも負けず成功へ.....総力を結集.....14
- ・事務局だより16

公益財団法人 日本ソフトボール協会オフィシャルホームページ

www.softball.or.jp

第18回男子ワールドカップ ファイナル

2025年7月8日（火）～13日（日） カナダ・プリンスアルバート



スーパーラウンド進出も4位で終戦

去る7月8日（火）～13日（日）、カナダ・プリンスアルバートで「第18回男子ワールドカップ ファイナル」が開催され、男子TOP日本代表が出場。大会には、ホストチームであるカナダ（4）をはじめ、アルゼンチン（1）、オーストラリア（2）、日本（3）、ベネズエラ（5）、アメリカ（6）、ニュージーランド（8）、ドミニカ共和国（11）の「世界のTOP8」が集い、「世界一」の座を争った（※）内の数字は大会開催時の世界ランキング）。

大会は参加8チームをA・B2つのグループに分け、シングルラウンドロビン方式（1回総当たり）の予選リーグにあたる「オープンングラウンド」を実施。上位2チームが「2次リーグ」にあたる「スーパーラウンド」に進出（ただし、同じグループですすでに対戦したチームとは対戦せず、「オープンングラウンド」の試合結果を持ち越す）。「スーパーラウンド」3位・4位のチームが「ブロンズメダルゲーム」（3位決定戦）を、同1位・2位のチームが「ワールドチャンピオンシップ ファイナル」（優勝決定戦）を行い、「世界一」の座を決定する試合方式で覇が競われた。

男子TOP日本代表は、「前回大会の覇者」オーストラリア、「優勝候補」の呼び声高いアメリカ、「グループステージ」グループAを1位で勝ち上がった

てきたドミニカ共和国と同グループの「グループB」に振り分けられた。

男子TOP日本代表は、初戦のドミニカ共和国戦、佐藤光希のソロホームランで先制し、一度は逆転を許したものの、最終回、土壇場で鳥山和也の起死回生の一発で追いつきながら、その裏、無念のサヨナラ負け。

続く「優勝候補」アメリカとの対戦は、森田裕介の一発で先制。二転三転の「死闘」の末、「エース」池田空生の力投と佐藤光希の逆転タイムリーで試合をひっくり返し、5-4と競り勝ち、息を吹き返した。

「オープンングラウンド」最終戦の相手は「前回大会の覇者」オーストラリア。勝った方が「スーパーラウンド」に進む「大一番」で「世界最高のサウスポーク」ジャック・ベスグロブを攻略。4本塁打を含む11安打の猛攻で11-2の5回コールド勝ち。「グループB」1位で「スーパーラウンド」進出を決めた。

「スーパーラウンド」はアメリカ戦の「1勝」を持ち越し、初戦で「グループA」1位のベネズエラに5-1で快勝。最終戦のニュージーランド戦は、4点差までの敗戦なら「ワールドチャンピオンシップ ファイナル」進出という「絶対有利」な状況にありながら3-8の5点差で敗れ、「ブロンズメダルゲーム」でもアメリカに1-10で大敗。4位に終わった。

第18回男子ワールドカップ ファイナル オープニングラウンド 日本戦試合結果



現地レポートはこちら 試合経過・結果はこちら



現地レポートはこちら 試合経過・結果はこちら

第2戦 USA 4 - 5 JAPAN
OPENING ROUND GROUP B

第1戦 JAPAN 2 - 3 DOMINICAN REPUBLIC
第3戦 AUSTRALIA 2 - 11 JAPAN

2勝 1敗
1位



現地レポートはこちら 試合経過・結果はこちら

第18回男子ワールドカップ ファイナル スーパーラウンド 日本戦試合結果



現地レポートはこちら



試合経過・結果はこちら

第1戦 VENEZUELA 1 - 5 JAPAN



現地レポートはこちら



試合経過・結果はこちら

TQBの差で「WORLD CHAMPIONSHIP FINAL」進出ならず…

第2戦 NEW ZEALAND 8 - 3 JAPAN



現地レポートはこちら



試合経過・結果はこちら

4位終戦

BRONZE MEDAL GAME (3位決定戦) USA 10 - 1 JAPAN

大会出場メンバー、各選手プロフィール、試合経過・結果等 詳細情報はこちら

第2回女子U15ワールドカップ

2025年6月27日(金)～7月5日(土) イタリア・レニャーノ、カロンノ・ペルトゥゼッラ

全勝優勝！ 世界一



「第2回女子U15ワールドカップ」が6月27日(金)～7月5日(土)、イタリア・レニャーノ、カロンノ・ペルトゥゼッラで開催され、アメリカ(1)、日本(2)、プエルトリコ(3)、チャイニーズ・タイペイ(4)、カナダ(6)、イタリア(7)、チェコ(8)、メキシコ(9)、オーストラリア(10)、スペイン(13)、シンガポール(39)、アメリカン・サモア(64)の12チームが出場(※)内数字は大会開催時の世界ランキング順位。

出場12チームを「グループA」「グループB」に振り分け、シングラウンドロビン方式(1回総当たり)の予選リーグにあたる「オープニングラウンド」を実施。その「オープニングラウンド」の順位に基づき、各グループ上位3チームが2次リーグにあたる「スーパースラウンド」に進出。ここでも1回総当たりのリーグ戦を行い(ただし、同一グループですでに対戦したチームとは対戦せず、「オープニングラウンド」の試合結果を「スーパースラウンド」に持ち越す)、「スーパースラウンド」3位・4位のチームが「ブロンズメダルゲーム」(3位決定戦)を、1位・2位のチームが「ワールドチャンピオンシップファイナル」(優勝決定戦)を戦い、「最終順位」を決定。「世界一」の座を争った。

日本は、プエルトリコ、イタリア、メ

キシコ、スペイン、アメリカン・サモアと同じグループの「グループA」に振り分けられ、「オープニングラウンド」初戦のアメリカン・サモア戦を6―2で快勝すると、プエルトリコに7―0(5回コールド)、ホスト国・イタリアに4―3、メキシコに6―0、スペインに9―1(5回コールド)と5戦全勝。「グループA」1位で「スーパースラウンド」に進出。「スーパースラウンド」でも初戦でチャイニーズ・タイペイに4―0の完封勝ち。「オープニングラウンド・グループB」を圧倒的な強さで勝ち上がり、日本と同じくここまで「全勝」を続けてきた「宿敵」アメリカ戦にも、苦しみながら3―2で競り勝ち、「スーパースラウンド」1位通過を決め、一足先に「ワールドチャンピオンシップファイナル」(優勝決定戦)進出を決めた。

「スーパースラウンド」最終戦で「優勝候補筆頭」のアメリカがプエルトリコに敗れる波乱があり、「ワールドチャンピオンシップファイナル」では「スーパースラウンド」2位のプエルトリコと「世界一」の座をかけ、対戦。先発・北村葉琉のあわや「完全試合」(最終回、一死まで一人の走者も許さず)の快投もあり、プエルトリコに4―0の完封勝ち！無敗のまま「世界の頂点」に登り詰め、前回大会の「リベンジ」を果たし、「世界一」の座に輝いた(大会詳細はこちら)。

第2回女子U15ワールドカップ日本戦 試合結果



© WBCS

4-3
WIN

OPENING ROUND GAME 3
vs ITALY



7-0
WIN

© WBCS

OPENING ROUND GAME 2
vs PUERTO RICO



© WBCS

6-2
WIN

OPENING ROUND GAME 1
vs AMERICAN SAMOA

OPENING ROUND
GROUP A
5戦全勝
1位



9-1
WIN

OPENING ROUND GAME 5
vs SPAIN



© WBCS

6-0
WIN

OPENING ROUND GAME 4
vs MEXICO



© WBCS

7-0
WIN

SUPER ROUND GAME 3
vs CZECHIO



© WBCS

3-2
WIN

SUPER ROUND GAME 2
vs USA



© WBCS

4-0
WIN

SUPER ROUND GAME 1
vs CHINESE TAIPEI

WORLD CHAMPIONSHIP FINAL
決勝進出

1位

SUPER ROUND
3戦全勝



© WBCS

WORLD CHAMPIONSHIP FINAL

JAPAN 4-0 PUERTO RICO

※各試合のスコアをクリックすると試合レポートがご覧になれます

能登半島地震復興支援 東西対抗戦

令和7年6月29日（日） 石川県金沢市／石川県立野球場



去る6月29日（日）、石川県金沢市・石川県立野球場において、JDリーグ（一般社団法人日本女子ソフトボールリーグ機構）が「能登半島地震復興支援東西対抗戦」を開催した。

このイベントは、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災された方々に「笑顔と元気を届ける」ことを目的として「観覧無料」で開催され、日本のトッププレイヤーを一目見ようと多くの観客が来場した。イベントには石川県にゆかりのある選手や女子TOP日本代表に名を連ねる選手も参加し、会場を大いに盛り上げた。

午前中に「東地区チーム」と「西地区チーム」による「東西対抗戦」が行われ、試合は「西地区チーム」が3-3の同点で迎えた5回表に4点を勝ち越し、7-3で勝利した。

試合後には参加選手全員による「サイン会」も行われ、被災地の方々や石川県のソフトボールファンの皆さんと直接交流する時間も設けられた。

午後からは石川県内の小学生から高校生を対象とした「ソフトボール教室」を実施。100名を超える子どもたちが参加し、日本トップレベルの投球を間近で体感。ホームラン競争では選手たちと共に盛り上がり、技術指導を受けたながらソフトボールを楽しむ姿が印象的であった。

●東地区 vs 西地区 東西対抗戦●



◆ソフトボール教室◆



イベントの詳細は JD.LEAGUE 公式サイトで <<https://jdleague.jp/>>



**JAPAN
SOFTBALL
LEAGUE**

第58回
日本女子ソフトボールリーグ
交流節

Platinum Section

大和電機 Blue Lakers



**6勝2敗
同率
首位**



Sapphire Section

VONDS 市原 Emerald Green



【交流節】 令和7年7月4日（金）～6日（日）

☆プラチナセクション★サファイアセクション合同開催
富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

☆プラチナセクション☆

**MORI ALL WAVE KANOYA、
大和電機、静甲の3チームが同率首位**

★サファイアセクション★

**VONDS 市原、YKK
6勝2敗で首位を並走！！**

●交流節・プラチナセクション概要●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」交流節は、7月4日(金)～6日(日)の3日間、富山県富山市・岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を会場に開催された。

交流節は「プラチナセクション」1位・3位・5位のチームが「サファイアセクション」2位・4位・6位のチームと、「プラチナセクション」2位・4位・6位のチームが「サファイアセクション」1位・3位・5位のチームと対戦する試合方式が採用されている。

「プラチナセクション」では、この交流節を1位で迎えた静甲、2位・大和電機とともに2勝1敗。静甲は初戦の「サファイアセクション」2位・VONDS市原戦、「ルーキー」小黒美空の「一発」で先制しながら逆転負け残り2試合を連勝したものの、通算成績6勝2敗となった。

2位・大和電機も初戦の「サファイアセクション」3位・小泉病院戦を1-6で落とし、残る2試合は勝利したものの、6勝2敗で「同率首位」。

これに並びかけたのが昨シーズンの「覇者」MORIALL WAVE KANOYA。この交流戦を3連勝で乗り切り、通算成績6勝2敗で「同率首位」に並んだ。

4位は5勝3敗の花王コスメ小田原。初戦の「サファイアセクション」5位・厚木SC戦は2-1で辛勝したものの、

同1位・YKKとの対戦は2-4で落とし、最終戦の同3位・小泉病院戦は初めに2点を失いながら、3-2の逆転勝ち。苦しみながらも2勝1敗で交流節を乗り切り、上位争いに踏み止まった。Citrine Ichinomiyaは初戦の「サファイアセクション」6位・ペヤング戦に3-0で快勝し、2勝目を挙げたが、その後、連敗。通算成績2勝6敗で5位となっている。

ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は初戦、「サファイアセクション」1位・YKKを相手に最終回までリードを奪う大健闘。勝利を目前にしながら無念の逆転サヨナラ負けを喫したが、続く厚木SC戦は吉村美乃里、前田京香の本塁打等で6-2と快勝！嬉しい今

シーズン初勝利を挙げ、最終戦は落としたものの、今節1勝2敗。レギュラーシーズンでは2022年、第4節・ペヤング戦以来となる勝利を挙げた。交流節を終え、「プラチナセクション」後半戦再開となる「第3節」は、9月6日(土)・7日(日)の2日間、茨城県古河市・幸土上大野グラウンドで開催される予定である。

●交流節・サファイアセクション概要●

「第58回日本女子ソフトボールリーグ」交流節は、7月4日(金)～6日(日)の3日間、富山県富山市・岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場を会場に開催された。

交流節は前述の通りの試合方式で行われ、前半戦1位、「ホーム」開催の交流節で「首位固め」を狙ったYKKは初戦、2戦目と順調に勝ち星を重ね、最終戦を迎えたが「プラチナセクション」2位・大和電機に1-5で敗れ、3連勝はならず、通算成績6勝2敗となった。

「プラチナセクション」1位の静甲を相手に逆転勝ちを収める等、初戦、2戦目と順調に勝ち星を重ねたが、最終戦で同3位のMORIALL WAVE KANOYAに3-7で敗れ、こちらも通算成績6勝2敗。YKKと並んで「同率首位」となった。



「プラチナセクション」「サファイアセクション」とも激戦が続く

昨シーズン準優勝、前半戦2位で交流節を迎えたVONDS市原も初戦で

3位は小泉病院。こちらも交流節2勝1敗で通算成績5勝3敗。上位争いに踏み止まってはいるが、混戦状態を抜け出すための「決め手」を欠いている。

4位は3勝5敗の平林金属。初戦は「プラチナセクション」1位の静甲を相手に序盤から激しい点の奪い合いを演じたが、終わってみれば4-9で敗戦。2戦目の同3位・MORIALL WAVE KANOYAとの一戦は投手陣が打ち込まれ、2-12と大敗。最終戦、同5位のCitrine Ichinomiyaに12-5と打ち勝ち、3連敗は免れたものの、上位争いから大きく引き離される結果となった。

厚木SC、ペヤングとともに今節勝ち星なしの3連敗。通算成績1勝7敗と苦しい状況を打破できずにいる。「サファイアセクション」後半戦の幕

開けとなる「第3節」は、9月6日(土)・7日(日)、神奈川県厚木市・厚木市営玉川野球場を会場に開催される。

Special Event



～ Special Event ～
※出場メンバー 東海地区大学選抜 **2-1** JSL Jr オールスター **出場メンバー**※
 ～ DREAM MATCH ～
※出場メンバー レジェンドチーム **5-1** JSL オールスター **出場メンバー**※
 ～ ALL STAR GAME ～
※出場メンバー プラチナ選抜 **3-5** サファイア選抜 **出場メンバー**※
 試合のスコアをクリックするとその試合の詳細レポートが、
 出場メンバーをクリックするとその試合の選手名簿がご覧になれます

第58回日本女子ソフトボールリーグ 交流節 試合結果					
月日	セクション順位	試合結果		セクション順位	
7月4日(金)	プラチナ1位	静甲	1-4	VONDS市原 Emerald Green	サファイア2位
	プラチナ4位	花王コスメ小田原 フェニックス	2-1	厚木SC	サファイア5位
	プラチナ3位	MORI ALL WAVE KANOYA	6-0	ベヤング	サファイア6位
	プラチナ1位	静甲	9-4	平林金属 Peachblossoms	サファイア4位
	プラチナ6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	2-3	YKK	サファイア1位
	プラチナ2位	大和電機 Blue Lakers	1-6	小泉病院 Blue Arrows	サファイア3位
	プラチナ3位	MORI ALL WAVE KANOYA	12-2	平林金属 Peachblossoms	サファイア4位
	プラチナ5位	Citrine Ichinomiya	3-0	ベヤング	サファイア6位
7月5日(土)	プラチナ2位	大和電機 Blue Lakers	11-0	厚木SC	サファイア5位
	サファイア1位	YKK	4-2	花王コスメ小田原 フェニックス	プラチナ4位
	サファイア6位	ベヤング	1-6	静甲	プラチナ1位
	サファイア5位	厚木SC	2-6	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	プラチナ6位
	サファイア3位	小泉病院 Blue Arrows	2-3	花王コスメ小田原 フェニックス	プラチナ4位
	サファイア1位	YKK	1-5	大和電機 Blue Lakers	プラチナ2位
	サファイア2位	VONDS市原 Emerald Green	4-0	Citrine Ichinomiya	プラチナ5位
	サファイア3位	小泉病院 Blue Arrows	6-2	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	プラチナ6位
サファイア2位	VONDS市原 Emerald Green	3-7	MORI ALL WAVE KANOYA	プラチナ3位	
サファイア4位	平林金属 Peachblossoms	12-5	Citrine Ichinomiya	プラチナ5位	

※試合のスコアをクリックすると各試合のレポートがご覧になれます

第58回日本女子ソフトボールリーグ

プラチナセクション 交流節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	MORI ALL WAVE KANOYA	6勝2敗	0.750
1位	大和電機 Blue Lakers	6勝2敗	0.750
1位	静 甲	6勝2敗	0.750
4位	花王コスメ小田原 フェニックス	5勝3敗	0.625
5位	Citrine Ichinomiya	2勝6敗	0.250
6位	ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1勝7敗	0.125

サファイアセクション 交流節終了時点 順位表

順位	チーム名	勝敗	勝率
1位	VONDS市原 Emerald Green	6勝2敗	0.750
1位	YKK	6勝2敗	0.750
3位	小泉病院 Blue Arrows	5勝3敗	0.625
4位	平林金属 Peachblossoms	3勝5敗	0.375
5位	厚木SC	1勝7敗	0.125
5位	ペヤング	1勝7敗	0.125



大会結果詳細、戦績表、チーム紹介・選手プロフィール、試合スケジュール等詳細は
JSL オフィシャルウェブサイト <https://jssl-women.com/>

UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会 in 高崎

2025年6月28日（土）・29日（日） 群馬県高崎市・高崎市ソフトボール場（UTSUGI STADIUM）・第2ソフトボール場



去る6月28日（土）・29日（日）の両日、群馬県高崎市・高崎市ソフトボール場（宇津木スタジアム）・第2ソフトボール場を会場に、日本（高崎選抜）、イタリア、ドイツ、タンザニア、ボツワナ、シンガポールの6チームが参加し、「UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会 in 高崎」が開催された。

この大会は、「UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会 in 高崎」開催実行委員会の主催、高崎市上毛新聞社の共催で開催され、将来のソフトボール界を担うジュニア世代の子どもたちの「夢の実現」に向け、世界的に競技を普及させることを目的として実施されている。

同大会の開催は2023年に続き、2回目。元・女子日本代表監督で、現在（公財）日本ソフトボール協会副会長であり、WBSF（世界野球ソフトボール連盟）理事でもある名将・宇津木妙子氏の名を冠して開催されている。

前回は「U15」（15歳以下）の大会として開催されたが、今回は「U18」（18歳以下）に対象カテゴリーを変更し、開催された。

大会は試合結果にこだわらず、国際交流・親善を深め、ただひたすらにソフトボールの楽しさ、面白さを追求・体現する大会となり、笑顔と歓声が溢れる大会となった。

UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会 in 高崎



準優勝 イタリア



優勝 日本代表(高崎選抜)



第4位 ドイツ



第3位 シンガポール



第6位 ボツワナ



第5位 タンザニア



ソフトボールの原点がここにある

大会は、参加6チームを「グループA」(日本代表/高崎選抜、ドイツ代表、タンザニア代表)、「グループB」(イタリア代表、ボツワナ代表、シンガポール代表)、2つのグループに分け、シングルラウンドロビン(1回総当たり)の予選リーグを実施。その予選リーグの順位に基づき、A・B両グループの3位同士が「5位決定戦」を、2位同士が「3位決定戦」を、1位同士が「優勝決定戦」を行う試合方式で優勝が争われ、「日本代表」(高崎選抜/高崎市内5校・高崎健康福祉大学高崎高等学校、高崎商業高等学校、高崎女子高等学校、高崎東高等学校、高崎北高等学校で編成された合同チーム)が優勝。以下、2位・イタリア、3位・シンガポール、4位・ドイツ、5位・タンザニア、6位・ボツワナという結果となった。

通常の大会なら大会の「ハイライト」は優勝決定戦となるが(優勝決定戦も地元・高崎の選抜チームということで大いに盛り上がったが)、アウト一つ取っては、まるで「優勝」したかのように喜び、打てなかったり、ミスしたりすれば、これで人生の終わりのかのように落胆し、試合が終わればどんな大差で負けようが、相手チームと一緒に踊り、歌うタンザニアが今大会の「主役」の座をかつさり、念願の国際大会「初勝利」を挙げ、万雷の拍手を浴びていた。

イベント開催続々 国際大会も開催



酷暑・猛暑に負けず成功へ……総力を結集

6月中旬～7月中旬にかけては、夏の全日本大会（全国大会）へ向けて、しばし休息、アイドリング期間となるはずだが、今年は6月末に、群馬県高崎市で「UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会 in 高崎」（詳報・本誌12・13頁掲載）が開催され、時を同じくして石川県金沢市で、JDRリーグ「能登半島地震復興支援 東西対抗戦」（詳報・本誌6・7頁掲載）が開催される等、例年にない「新たな試み」や国際交流・国際親善を主目的とし、ヨーロッパ、アフリカ等へ向け、さらなるソフトボールの普及をめざした国際大会が開催される等、活発な活動を展開した。

また、この時期、リーグ関連で唯一開催される「第58回日本女子ソフトボールリーグ」交流節（詳報・本誌8～11頁掲載）が開催され、公式戦を行う傍ら、最終日には「スペシャルイベント」も実施。それらのイベント、大会開催、試合実施には、その「裏側」で大会を支える「裏方」の姿があった。審判員・記録員の皆さんをはじめ、大会運営に携わる皆さん、そして試合に出場する選手、イベントに参加の皆さんを含め、大会の成功へ向け、総力を結集！ソフトボールのさらなる活性化と盛り上がり一致団結・力を合わせた。そう……ソフトボールは一人ではできない。だからこそみんなの力が必要なのです！！

UTSUGI CUP U-18 国際女子ソフトボール大会 in 高崎



JD リーグ「能登半島地震復興支援 東西対抗戦」



第58回日本女子ソフトボールリーグ交流節



事務局だより

女子TOP日本代表チーム 国内強化合宿事業 幸運ホールディングス㈱と 長崎県大村市 サポート決定



公益財団法人日本ソフトボール協会は、去る6月24日（火）、長崎県大村市・大村市役所において、女子TOP日本代表の国内強化合宿を長崎県大村市で実施する「覚書」を締結。また、その宿泊、飲食、輸送等をサポートする「オフィシャルサポートパートナー協定」を同市・幸運ホールディングス株式会社と結ぶことを決定。その「締結式」が行われ、記者発表が実施された。

この「覚書」「オフィシャルパートナー協定」締結式には、公益財団法人日本ソフトボール協会から牧島かれん会長、女子TOP日本代表チーム・宇津木麗華ヘッドコーチ、「オフィシャルサポートパートナー協定」を締結する「幸運ホールディングス株式会社」から馬場邦彦代表取締役社長、同社・藤野芳弘代表取締役副社長、強化合宿実施の「覚書」を締結する大村市から園田裕史大村市長、同市・山下健一郎副市長、側方支援をいただく大村市ソフトボール協会・小林史政会長、長崎県スポーツコミッション・川瀬亨介事務局長が出席し、行われた。

「幸運ホールディングス株式会社」との「オフィシャルサポートパートナー協定」については、2025年（令和7年）度から2028年のロサンゼルスオリンピック参加まで、長崎県大村市で実施する女子TOP日本代表チ

ーム国内強化合宿に際し、チームの大村市内における宿泊、飲食、バス等の合宿費用について、「長崎県スポーツコミッション合宿拠点づくり推進事業補助金」を除く、大村市で支出する経費を「幸運ホールディングス株式会社」が「オフィシャルサポートパートナー」として支援するというもの。



「オフィシャルサポートパートナー協定」を締結した「幸運ホールディングス株式会社」馬場邦彦社長

また、大村市との女子TOP日本代表チーム国内強化合宿事業に関する「覚書」の締結については、2028年ロサンゼルスオリンピックに向けた女子TOP日本代表チーム国内強化合宿事業を令和7年度から令和10年度（2028年）まで大村市内の体育施設で実施し、併せて合宿期間中に小中学生向けにソフトボール教室を実施することにより

大村市のスポーツ振興を図っていくという趣旨・内容となっている。



女子TOP日本代表のレプリカユニフォームを身にまとい並々ならぬ「意欲と決意」を語る園田裕史大村市長

今後、女子TOP日本代表チームの強化合宿が大村市で実施されることで、大村市民をはじめ多くの人に身近で「世界最高レベルのソフトボール」「世界最強チーム」を観る機会を創出し、当地のジュニア世代を対象とした「ソフトボール教室」等を開催することによって、大村市ひいては日本の「将来」「未来」を担う小・中学生、高校生等にとって、素晴らしい経験をしてもらいたいとの願いを込め、スポーツを通じて大村市の地域の活性化や競技力の向上につなげていくという「効果」「影響」も期待されている。